

津波避難の心得8箇条

1 地震を感じたら身を守る!

1. まず地震から身をまもる
2. 火の始末をする
3. 避難の準備をする



2 正確な情報を得る!

- ・テレビ
 - ・ラジオ
 - ・市の広報（防災無線等）
- ※デマや噂に惑わされないよう注意



3 避難情報が出たらすぐ高台へ!

津波警報や避難勧告等があれば、ただちに高台など安全な場所へ避難しましょう。



4 避難は徒歩が原則!

道路にガレキ等があれば自動車は渋滞を招き、かえって危険です。

※日中は自転車も可



5 海辺や川縁に近づかない!

地震により護岸や堤防に損傷の恐れがあります。海辺や川縁からただちに離れましょう。



6 率先して避難する!

「津波だ、逃げる」と大声を出しながら、率先して避難しましょう。



7 地域での協力が大切!

お年寄りや体の不自由な方々に声をかけたり、ご近所で助けあいましょう。



8 水が引いても勝手に戻らない!

津波は何度もやってきます。避難解除まで避難場所等に留まりましょう。



本地図作成目的

この津波避難地図は、東日本大震災の教訓を踏まえ、

- ・日本海東縁部（マグニチュード8.5）
- ・能登半島東方沖（マグニチュード8.0）
- ・能登半島北方沖（マグニチュード8.1）
- ・石川県西方沖（マグニチュード7.8）

の4つの最大クラス想定地震のうち最も津波による浸水が予想される『能登半島北方沖』（海岸線への第一波到達予想時間約35分）が発生した場合の浸水状況を基に考えられる最悪のケースを想定しています。

本マップを災害発生前から活用していただき、災害発生時の被害軽減に役立てていただくことを目的としています。

日頃から津波避難に備える

1 避難場所・避難路を決めておく

1. 避難場所を決める
 2. 自宅からの避難路を決める
 3. 2.の代わりに避難路を決める
- 地図を使って決めてみましょう。

2 避難路を実際に歩いてみる

避難路を決めたら、実際に歩いて安全性を確認しておきましょう。また避難にかかる時間も確かめておきましょう。



※避難路はなるべく大きな道を選び、海や川の付近は避けましょう。
※道がふさがりなどの想定外への対処として避難路は複数検討しましょう。
※職場や学校から避難する場合も、同様にみんなで決めてみましょう。

3 ご近所でも話しあう

地域全体の避難のため、お年寄りや体の不自由な方を避難の時にどう助けるか話しあいましょう。



4 防災訓練に積極的に参加する

地震や津波といった災害は突然やってきます。そのため日頃の心構えがなくては、いざという時に対応できません。自治体などで行う防災訓練に積極的に参加し、防災知識と対応能力を身につけておきましょう。



非常時持ち出し品の準備と確認

<input type="checkbox"/> 懐中電灯	<input type="checkbox"/> ラジオ	<input type="checkbox"/> 飲料水	<input type="checkbox"/> 非常食	<input type="checkbox"/> タオル
<input type="checkbox"/> 貴重品	<input type="checkbox"/> 救急セット	<input type="checkbox"/> 衣類	<input type="checkbox"/> ローソク、ライター	<input type="checkbox"/> ロープ

必要に応じて準備する品

<input type="checkbox"/> ちり紙	<input type="checkbox"/> 使い捨て食器	<input type="checkbox"/> セッケン
<input type="checkbox"/> 粉ミルク、哺乳瓶、おむつ	<input type="checkbox"/> ドライシャンプー	<input type="checkbox"/> 生理用品
<input type="checkbox"/> ヘルメット	<input type="checkbox"/> 軍手	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

津波の特徴

●津波は速い

時速800km 時速250km 時速100km 時速36km

津波は水深が浅いほど遅くなりますが、それでもオリンピックの短距離選手並の速さです。

●地形で津波は変化する

津波の高さは海岸付近の地形によって大きく変化します。

●引き波がなくても来る

地震の起こり方や地形によっては引き波がおこらなくても津波がくる場合があります。

●2度、3度と繰り返す

津波は繰り返し襲ってきます。第1波が最大とは限りません。

本地図の解説

避難地図面における浸水深とは、地面から陸上にあがった津波の水面までの高さです。浸水が想定される地域を浸水域とします。本地図の想定浸水深データは、平成23年度石川県津波浸水想定調査の結果を基に、浸水深2.0m以上（濃赤）と浸水深2.0m未満（薄赤）に分類して表示してあります。津波による浸水深がたとえ20～30cm程度であっても、それ自体が大きなエネルギーをもっています。水かさがあがれば体が浮き上がり、大人であっても流されてしまいます。

また、想定の不確実性を考慮し、浸水域に近く、標高が比較的低い地域を要避難区域（黄色）に設定しています。浸水域と要避難区域を合わせて「避難対象区域」に指定し、津波警報等が発せられた際には必ず避難してください。

「避難対象区域」に指定されていない地域にお住まいの方でも、発生する地震の規模によっては浸水の可能性があります。想定の不確実性を考慮して、津波警報等が発表された際には十分にご注意ください。

津波情報、避難情報の伝達方法



災害用伝言サービスの使い方

NTT災害用伝言板ダイヤル「171」

- 伝言の録音 **171** → **1** → 市外局番 - 〇〇〇〇 - 〇〇〇〇
ガイダンスに従う 自宅の固定電話番号
- 伝言の再生 **171** → **2** → 市外局番 - 〇〇〇〇 - 〇〇〇〇
ガイダンスに従う 連絡を取りたい方の自宅の固定電話番号

災害用伝言板「web171」

携帯電話各社が開設する「災害用伝言板」です。携帯電話を含めたすべての電話番号で伝言の登録・確認ができます。

伝言の登録には利用者登録（氏名・電話番号・メールアドレス・パスワード）が別途必要です。

※災害用伝言板「web171」の登録方法などわからないことを家族で話しあいましょう。災害時は携帯電話がつながりにくくなることも予想されるので登録にとまどう恐れがあります。

